

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	TA1004	タイプ	提案型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ダナン	
受入機関	Foreign Affairs Department of Da Nang City				
受入機関概要 (事業内容等)	外国企業・団体に対するダナン市の窓口。 その中の日本担当セクションに派遣。同セクションのスタッフは6名。外務局全体では50人程度。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年2月14日				
現在の所属先	(株)東京ニュース通信社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	社長室		所在地	東京	
区分	中小企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

弊社が制作・販売している日本のエンタメ関連商品の新たな市場として若い世代の多い東南アジアをターゲットに、同インターンシップを活用しての現地調査、関係性構築、市場開拓を行う人間を社内で公募しており、私は元々海外勤務に興味があり新しい挑戦もしたかったので、応募しました。書類選考と面接を経て、正式に派遣されることになりました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

所属企業社員としては、日系又はローカル企業を回りエンタメ商品の需要調査や関係性作り、弊社商品の売り込みや今後の協力交渉などを行っていました。受け入れ先のダナン外務局職員としては、視察に来た日本企業の対応やベトナム他都市の企業とダナンの企業のビジネスマッチング、ダナンの人たちに向けた日本語講座などを行っていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ダナン外務局と継続的かつ具体的なビジネス協力をしていくことになり、その他にも複数連携できそうな企業及び機関を見つけることができました。半年滞在したことで深い関係性を構築でき、ベトナムの文化や商習慣などに関する鮮度の高い情報を得ることもできました。また、ダナン外務局を通して、ハノイやホーチミンといった他都市の業界団体や多くの日本企業とも関係性を作ることができました。

派遣中、実際にダナンの大学とホーチミンの企業とのビジネスマッチングを成立させることができ、とても嬉しかったです。自ら行動して新しい道を切り開いていくという部分で、肉体的・精神的に大きく成長したのではと思っています。

インターンシップ風景



ダナン企業と他と私企業の打ち合わせに同行



建設中の大学を視察し、関係者から話を聞く

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

弊社は日本のエンターテインメントや芸能に関連した商品製作及び情報発信をしている出版メディアの会社です。

その中で、ダナン外務局から日本に向けダナンのPRを私に帰国後してほしいというリクエストを基に相互に協力しながら、2015年8月末にダナンで開催された「越日文化交流フェスティバル2015」に、avex所属の歌手グループ・Prizmy☆を招待し公演してもらいました。公演や滞在中の撮影などを通してタレント自身の言葉によるダナンの魅力の発信などにより、日本に向けたPRに貢献できました。同イベントのため私は開催1カ月前からダナンに滞在し、ダナン外務局及びイベント会社との打ち合わせや準備など全体的な部分も含めて協力しました。

また同時にベトナム航空とタイアップし、取材及び撮影したベトナム中部の観光情報を弊社運営のWEBサイト上で展開したり、東京にオフィスを構えるダナン市の出先機関をクライアントにした広告代理店的な動きも現在進行形で行っています。

9月下旬には、ダナンのビーチや観光名所のPRを目的に、アイドルグループ・LinQの新木さくらの写真集撮影をダナンで行い、私は現地コーディネーター兼撮影スタッフとして再渡航しました。出版不況といわれる中で経費がかかる海外撮影を行うことは昨今難しく、また治安や撮影の品質確保の点からも敬遠されがちなのですが、ダナンのリゾートホテルやブライダルと交渉しタイアップでき、外務局からは安価で良質なサービスを提供するバス会社や通訳を紹介してもらえたため、安価かつ安全に撮影を終えることができました。今後発売に向けて、弊社媒体、タレントが出演するテレビ番組、タレントのSNSなど各種メディアを通して、ダナンやタイアップ相手の宣伝などをしていきます。

全くの0からスタートした事業ではありますが、インターン時に培った経験や構築した関係性などを通して、少しずつビジネスになり始め、また大きく成長しつつある実感を持っています。それぞれの案件で得た結果を基にまた新しいチャンスと挑戦へと繋がっていくことにやりがいと責任を感じながら、日本とベトナムの架け橋になれるような事業を今後も行っていきたいと考えております。

このインターンシップがなければ全て始まらなかったことですので、とても感謝しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外に一定期間滞在しインターンをするということは、特に社会人の方にとって大きな責任と覚悟が必要だと思います。また、環境や文化が全く異なる場所で確実なものを得ることは、生半可な気持ちでは難しいと思います。ただ、強い気持ちがあれば、その分チャンスと可能性が同インターンを通して得られます。そして、そのためのサポートをHIDAの方々がしてくださいませ。

強い思いや目的があるのであれば、ぜひとも参加をお勧めします。

現在の活躍の様子



フェスティバルにて歌手と観客の記念写真



ダナンのビーチでの写真撮影風景